

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273800118		
法人名	社会福祉法人沼風会		
事業所名	グループホーム沼風苑		
所在地	千葉県柏市箕輪588		
自己評価作成日	平成29年10月12日	評価結果市町村受理日	平成30年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成29年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特養やデイサービスを併設している為、大ホールやマイクロバスの利用ができ三波伸介一座やこまどり姉妹の合同でのイベントや日帰り旅行、花見などに利用し外出する機会を設けて入居者や家族の皆様楽しんで頂いている。行事については、夏祭りや運動会など大きなものから、その日の気分で行うドライブ、おやつ作り、急に流しソーメンをしたりと小さなもので月に数回は必ず行っている。また、家族にも声をかけて一緒に参加出来る方には参加してもらえる様に心がけている。日常生活においては、昔の趣味や特技を生かし詩吟や裁縫を日課として行ったり、文化祭や柏市シルバー作品展に俳句や絵、手芸の作品を展示したりすることで生き甲斐を感じてもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム独自の理念として、「自分らしい自由な生活を楽しむ」旨を掲げ、全職員で利用者に寄り添い、一人ひとりのペースを尊重した支援をしている。風呂も毎日沸かし、入浴時間を決めず、利用者の希望に合わせて対応している。職員の気づきによるヒヤリハット報告も多く出され、職員間で共有されており、それが事故防止にも繋がっている。敷地内には各種介護施設も併設されており、密に連携を取りあい、柔軟な支援を可能にしている。また、地域で毎年開催される「ふれあいの会」に参加し、利用者全員でコーラスを披露したり、近くの保育園を訪問して園児と交流したりと地域との絆も一層深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①自由な生活②開放的な生活③安心・安全の3つを挙げ実践している。また、もう少し具体的に表したものを広報紙に提示し心掛けている。	法人の理念に沿って、ホーム独自の具体的でわかりやすい理念を管理者、職員で話し合い、作り上げている。その理念を実践するため、ユニット毎に年度目標を定め、努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	大井のつどいや箕輪の集いに参加したり、ボランティアや学生の職場体験の受け入れ等行っている。地域の方々のコンサートに参加して歌を披露させてもらった	地域との交流を重視し、地域の集まりにも、毎月参加、ホームの納涼祭には地元のボランティアの方が多く参加している。今年は地域の保育園を訪問して園児とも交流し、利用者の普段見られない表情が見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周りが畑なので具体的な行動はできていないが、脱苑する方がいるので、地域の方々の理解と協力が必要な為、何かアクションを起こしたいとおもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回行っており、困っている点に様々なアドバイスを頂き参考にしてしている。	会議には利用者家族、地域代表、地域包括支援センター職員、市職員などが参加している。前はホームの近況報告の後、利用者が行方不明になった事例をあげて、地域の方に協力してもらう仕組みづくりについて意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、市の高齢者支援課介護基盤整備室(主にGH連絡会を通して)密に連絡を取り合っている。	市職員、地域包括支援センター職員とは運営推進会議参加時やグループホーム連絡会などを通して情報交換している。市主催の研修会、集団指導会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則しないケアを実践しているが、安全の為、窓などの施錠やベッド柵の使用を行うこともある。その際はご家族の同意書を頂き、最小限にする様に努めている。	研修会や事例検討会などを活用して、身体拘束しない支援に取り組んでいる。安全確保のため、玄関は施錠しているが、各ユニット間の行き来は自由にできるようになっていて、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう日頃より申し送りをしっかり行い、小さなアザであっても原因を追究し防止に努めている。外部研修に参加し理解を深め、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修など必要に応じて活用できる支援体制は整えられている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いずれの場合も十分な説明をおこない、家族の不安や疑問点がないか尋ね、納得、理解の得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見を聞いたり、必要であれば家族にカンファレンスに参加していただいている。玄関に意見箱を設置しているが意見が入っていることがなく違う方法も検討したい	毎月利用者家族にはホームでの活動状況を「照る日曇る日」として届け、意見が言いやすい環境づくりをしている。面会時や電話連絡時等に意見、要望を聞き、連絡帳に記録し、職員間で共有、対応している。	訪問のない家族に対しては、毎月の請求書送付時、「照る日曇る日」に加えて利用者の状況を簡単に追記する等の工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、セクション会議があり自由に意見・提案することが出来る。必要時はスタッフ会議を行い、議論している。	管理者は日頃から職員との会話を大切にし、積極的に意見、要望を聞いている。出された意見はセクション会議などで取り上げ、運営に反映させている。セクション会議には職員も参加して意見を出せる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り職場環境を整えている。キャリアパスを導入し細かい点まで評価できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人手不足の為、特養など全部署合同での研修会は一時中止しているが各部署ごとに必要に応じて開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会があり、意見交換(スタッフ交流会)、講師を招いての研修会、順番で互いの施設の見学会など幅広く行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に個々にあったコミュニケーションを心がけ、本人の言葉や表情や態度等から不安・要望をくみ取り、安心な生活が営めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活歴等を聞き、職員間で共有するように心がけている。家族の訪問時には細かな情報交換を行い信頼関係を築く様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員各自が変化に注意し見守り、情報共有をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切にし、家事など出来ることは極力やってもらい役割作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけ、共に過ごせる機会を提供できるよう心掛けている。面会時できる方には食事介助などをしてもらうこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を出したり、家族と一緒にの外出や遠方の方や大勢での面会等もおこないやすい環境作りを心がけている。(特別面会室等)ボランティアの訪問や地域の集い、外出時に知り合いに会うこともある。	週末や祝日には家族、知人の来訪が多く、家族と外出する方の支援や、皆でゆっくり過ごせる場を提供している。地域の集いに参加して知り合いと会えるのを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自の趣味・趣向を知り利用者同士が関わり易くなる様な支援を心がけている。相性の悪い方達には注意を払い未然にトラブルを防ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族に年賀状を出し困っている事があれば相談して下さるように促している。時々、遊びがてらに相談に来られる方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で利用者の情報共有を徹底し、日常生活や会話等から希望・意向を探り、カンファ等を開き検討・対応している。意思表示のできない方は表情等から気持ちを汲み取るように心がけている。	日々の関わりの中で聴き取った言葉や様子をケース記録に記入し、職員間で共有している。会話や意思表示が困難な方は、その人の表情や動作から思いを推測し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から得た情報をケース記録し職員間で共有している。又、利用者本人とのコミュニケーションに努め内面から知っていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録により日々の変化や気づいたこと等、情報を共有している。又、カンファレンスを行い職員全員が問題点や対応法を把握できるようにしている。必要であれば、その都度アセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	小さな変化や現状をケアマネに相談・報告しカンファレンスを行いケアプランに反映させており介護職員からプランの提案を行う事もある。担当者会議に家族も参加してもらい現状や問題点等を把握してもらっている。	毎日のケース記録を基に居室担当、ケアマネージャーとカンファレンスを行っている。日々一人ひとりの振り返りを記入し、目標達成に取り組んでいる。その結果を踏まえ、家族の意向も取り入れ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やケアプラン考察、月間考察を行っている。変化や発見があった時はプランの見直しのためのミニカンファを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望・要望に常に耳を傾け、実践するように心がけている。流しソーメンやピザ窯でのピザ作りなどをした。特養ホールにて様々なイベントがあり参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々ではあるが、買い物に行く等している。ボランティアが積極的に来苑してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、水曜日に内科と歯科の往診がありインフルエンザの予防接種なども対応している。急変時は電話での指示をもらい対応している。月1回、リハビリ指導(柔整師)や毎日、嚥下体操を行っている。	毎週、提携病院の内科医師による往診が有る。看護師のケアマネージャーを中心に利用者の健康維持に取り組んでいる。訪問歯科による治療と口腔ケア指導、柔道整復師による歩行訓練、筋力アップのリハビリ指導が有る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、食事量、便秘など報告相談し指示をもらっている。怪我の処置や医療行為については看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院のドクターによる定期往診が毎週あり、その都度、相談や情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には医師、家族等と十分に話し合いをし、確認書を取り交わし看取りまで行き、入居者に合わせたケアをスタッフ全員で共有し行っている。	終末期の支援について「看取りの介護依頼書」を取り交わしている。家族、主治医、関係者を交え話し合いを重ね、方向性を同じにしている。ホームで出来る最善のケアにチームとして取り組み、一度決定した意思について、何時でも変更できることを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練を定期的におこなっている。夜勤パートは参加できないので不安はあるが看護師、協力病院にも連絡がとれるようマニュアル作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いでの訓練(年2回)、地震や火災を想定した自主訓練や炊き出し訓練を行っている。災害時用に非常食を備蓄している。地区の消防団に加入したり、他施設への引き継ぎ表等を作成し備えている。	消防署立ち合いの、年二回避難訓練と独自の自主訓練を行っている。炊き出し訓練では、薪を使ったかまど炊きご飯や非常食で、利用者は災害時の食事も経験している。法人全体の協力体制は整っており、備蓄品は同じ敷地内の法人本部で集中管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権を尊重することを一番に考え、パーソンセンタードケアの実践を心がけている。特に呼び方や言葉使いには気を付けている。必要時はケアマッピングを行いケアに生かしている。	利用者を「一人の人」として尊重し、その人の視点や立場に立って理解し、支えようとしている。日々の生活では、呼び方や言葉遣い、プライバシーに配慮している。利用者のその人らしさに結び付くケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけ一人一人の理解力に合わせて説明を行い、自分で決定し納得して生活してもらえるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は、できるだけ利用者のペースに合わせるようにしている。編み物や脳トレドリルや塗り絵など、訴えがあったらできる限り準備してやっていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、洋服を選んでもらったり、その人らしくなるように支援している。また、洋服を褒める等を心掛けている。定期的に資生堂化粧教室を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、野菜切り、調理、皿洗い、皿拭き、テーブル拭き等、出来ることはして頂いている。また、畑で野菜を作っており食卓に並ぶこともある。希望を献立に反映させている。	利用者は自分のできる調理や盛り付け、洗物を率先して行っている。畑で収穫した季節の野菜が食卓を彩ることもある。リクエスト食は楽しみで、自分の育った郷土の料理を食材の買い出しから行い楽しんでいる。和やかで家庭的な食事風景が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談の上、メニューを決めている。食事形態も一人一人に合わせて対応している。必要に応じて食事量、水分量を記録し確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。歯科往診にて行っている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に合わせ支援している。日中はできるだけトイレで排泄できるようにし、立位が取れない方には二人介助を行っている。オムツの方でも排便のサインがある時はトイレ誘導している。	生活の記録から、一人ひとりの状態に合わせたケアや、間隔を把握した声掛けをさりげなく行っている。プライバシーに配慮して職員はドアの外で待ち見守っている。昼間は全員トイレでの排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状況は常に把握しており、一番いい方法(薬、牛乳など)を看護師や栄養士と相談して対応している。、出来るだけ自然排便を促し、下剤を減らす努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、風呂は沸かしてあり個人の希望に沿って、時間を問わずに入浴してもらっている。夜間は安全の為、行っていない。拒否のある人は特養の大浴場を使用させてもらうこともある。	一人ひとりの希望で、朝一番風呂の方や夕方ゆっくりの方と自由にお風呂を楽しんでいる。広い浴室はヒートショック対策も取られ、安全安心に努めている。車椅子対応の入浴等状態に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決まっておらず、一人一人の習慣・状態および体調を観察しながら安眠できるように支援している。日中も自由に休んでいただける様にしているが1時間ほどで起こすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつも見れるようファイルにして保存しており、症状の変化に気を付けるように努めている。処方が変わった時は、申し送りを徹底している。誤薬防止の為、複数回の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティ・家事・散歩等の実施で生活に楽しみ、喜びを見出している。晩酌や詩吟を日課としている方もいる。また、どんな事に喜びを感じるのか？普段からよく観察しケアに取り入れる様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝礼、ゴミ捨て、他ユニットに行くとき等は一緒に行くようにしている。散歩、外気浴・ドライブ、買い物、地域の集まりなど外出の機会を設けている。日帰り旅行も毎年実施している。	天気の良い日は、周辺を散歩したり、広いバルコニーでの外気浴や隣のユニットを訪れている。併設の特養やデイの福祉車両を利用し、家族も参加の日帰り旅行や、季節の花見、いちご狩り等外出が多い。チャリティコンサートに招待されオペラ歌手の歌声を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には自分で管理してもらい一緒に買い物に出掛けたりしている。ヤクルト訪問販売や自動販売機を利用することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話に応じたり、希望時に電話をかけたり手紙で家族に自分の思いを伝えられるように支援している。携帯電話を利用している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を利用し、刺激のないように考慮し、季節の花、行事、お誕生会の写真を飾ったり、季節感を常に感じていただけるよう生活に取り入れている。	ユニットごと利用者の笑顔の写真や、趣味の編み物やミシンを使った作品が掲示されている。レクリエーションでは資生堂の美容師によるネイルやお化粧を楽しんだり、ゆったりしたソファでは利用者同士が仲良く談笑している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	、お互いの相性を考慮して席の工夫をし、楽しく過ごせる様に心掛けている。廊下の談話コーナーにソファを置き、静かに過ごせる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自ら使用していた家具・小物などを配置し、安心して過ごせる様にしている。温度管理、清掃にも注意し一緒に掃除をしたりもしている。	入居時、趣味や好きなことができるよう、馴染みの家具や小物を持って来てほしいと依頼している。リラックスして過ごすことができる環境を整えている。職員と行う掃除で室内は清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存機能・能力を生かし、見守り、声掛けを行うことで安心・安全な生活がおこなえるよう支援している。トイレや自室に目印をつけ、迷わないようにしている。		